

小須戸公民館報

町館 戸民 須公 小中 須中
発行所 小須戸公民館
発行人 岡 謙 吾
発行日 毎月 15 日

勇壮!! 小須戸の喧嘩燈籠



300年以上の歴史をもつ小須戸の喧嘩燈籠写真は70年程前のもの。今まで担いだ事の無い人はぜひ担いで欲しい。

小須戸町では、旧村単位でそれぞれ祭りを行っていますが、その中で勇壮で伝統のある小須戸の諏訪神社の祭、言わゆる「喧嘩祭り」が八月二十五日、二十六日の二日間行なわれます。三百年余の歴史をもつ喧嘩祭りを紹介しましょう。

京都祇園祭から喧嘩燈籠

小須戸の豪商米沢屋吉田家は京都に行く度に祇園祭の燈籠の美しさに見とれていました。そして「小須戸にもこんな美しく上品な燈籠を飾りたい」と思い、寛永十六年（一六三九年）日頃から念願であった燈籠を京都から買って小須戸の諏訪神社に飾ったのが小須戸の燈籠のいわれとされています。初めは縦四尺、横五尺位の小さなものだったそうです。それを見た他の町内が俺達もと燈籠を出さようになり、占くから燈籠を出した町内は一番町、二番町、三番町など六町でした。始めは燈籠を押し合う程度でしたが、京都から人形師を招き、各町内が競って美し

い人形を造り、衣裳を着せて白慢し合い、はては因縁をつけて各町内対抗の喧嘩祭りとなっていきました。いつしか燈籠をぶつけ合う町内は、一、二、三、四番町だけとなり、一番町と二番町が上で、三番町、四番町が下の方でぶつかりあう喧嘩をしました。一番町が負けそうになると四番町が加勢に、逆に二番町には三番町が加勢にきていました。そして昔は新保・竜が二番町の応援を、横川浜と水田は三番町の応援をし、本町通りでは人の身動きがとれない程の大人数の中で燈籠がぶつかりました。また、祭りの最終日には燈籠をぶつけ合う様を見ようと見物人が近郷から集まり、本町通りは屋根まで人で埋めつくされました。そして、自分方の燈籠の形勢が悪いとみるや、屋根石を投げるなど、勇み立って文字通り血の雨を降らせた事もたびたびあったといわれています。

三百年の伝統喧嘩燈籠

そして現在、さすがに屋根石はなくなり、そのおかげでケガをする人もいなくなりましたが、喧嘩燈籠はいかかわらず威勢よくぶつかり合っています。燈籠は、四組・松・竹・梅・桜と地区ごとに分けられており諏訪神社の神様が、町内を巡り本町二の住吉様（現商工会の所）で二十五日の晩泊まりに出向く際、露払い的な役割で御神輿の



受けつがれている喧嘩燈籠の勇壮な姿

ちよこつと一言 (41)

テレビや新聞等で毎日悲惨な交通事故が報道されている昨今ですが、自分だけは事故を起こさない、事故に遭わないと思っている人が多数だと思えます。私はプロドライバーとして県内外を走っていますが、最近、非常にマナーが悪いドライバーが多く見られる様です。でも県内の人は県外よりもマナーが



心にゆとり
矢代田十一
阿部正
良いように思います。一人のドライバーのために多数の人が迷惑をします。一人ひとりがマナーを守って事故を起こさない事故に遭わないようにしましょう。車、バイク等を運転される方は出発する前に一服して心にゆとりを持ってから運転しましょう。我が町より交通事故を無くしましょう。

喧嘩燈籠は勇壮で伝統ある祭りです。地域の人達で力を合わせ、燈籠をみんなで担ぎましょ。今年祭りが日曜日、さあ！はつびを各組役員の方所へ取りにいきましょ。

表装教室 一期閉級
いや、うまいもんですねえ
四月下旬から始まった表装入門教室が七回の講義を受け閉級しました。横越村からお願いした佐藤先生より丁寧に指導を受け閉級式には写真のような、すばらしい作品ができました。小須戸町には、書道、拓本、墨絵などの愛好者はたくさんいますが、その作品を表装できる方が少ないのが現状でした。今回の表装教室で、「自分の作品をりっぱな表装にして部屋に飾ってみたい」と話しておられた参加者もいました。中央公民館では、八月より、表装入門教室二期を開級します。指導者には今回二期を終えられた方にお願ひし、自分の技術を

おめでとうございませ
第四十三回 毎日書道展入選
日本最大のマンモス書道展である第四十三回毎日書道展が七月八日、東京都美術館で開催されました。応募点数二八、五二六点の中から、小須戸町文化協会会員の次の方が見事入選されました。おめでとうございませ。

第六回小須戸分館野球大会
松チムサヨナラ優勝
七月二十一日、スポーツ公園野球場で、第六回小須戸分館野球大会が行われました。快晴のこの日、松・竹・梅・桜・ウデコキの五チームから百二十人が参加しました。

第二十九回小須戸町 近郷庭球大会三百人が参加
夏まつ盛りだといのに、まだ梅雨明けきらない七月二十八日、毎年恒例で、小須戸体協、小須戸町庭球協会主催の近郷庭球大会がスポーツ公園テニスコートで開催されました。当日は曇空で、小雨もパラつくあいにくの天気でしたが、新潟、新津、白根など、市町村三百人が集まり大変盛況でした。

見てよし 喧嘩燈籠
若い衆が百五十人が天下の往來で激しくぶつかり合う様は、まさしく「喧嘩」で、見物人も手に汗を握りながら見て頂ける事でしょう。ぶつけ合う時間はわずか数分ですが、短かいがゆえに完全燃焼しようとするためのもすこい迫力です。

公聴会を開きます
県では、新潟都市計画区域の市街化区域と市街調整区域の見直し作業を進めていますが、その公聴会を開催します。
▽日時：八月二十八日（水）午後一時三十分
▽会場：新潟県庁 警察庁舎大会議室
▽問合せ：公聴人の申出など詳しいことは、建設課土木係（☎二八二一三一一）へ（内線三十一）

優勝 松チム
準優勝 竹チム
三位 梅チム
最高殊勲選手 清水義光
最優秀選手 佐藤雄三
ホームラン賞 中野利久
(新町三)

優勝 松チム (A)
二位 小須戸中 (A)
三位 新津一中 (A)・田上中 (A)
〈女子Bクラス〉
一位 小須戸中 (A)
二位 見附中 (A)
三位 白根一中 (B)・田上中



障子は漂白剤で白くする
少々の汚れなら、コップ一杯の水に小さじ一杯の洗濯ノリをとかし、さらに漂白剤を少し加え霧吹きで障子にかける。

読んでつくする豆知識

おじいちゃん 大ハッスル

七月十九日、町民体育館で毎年恒例の老人スポーツ大会が開催されました。第十六回を数える今回は、老連結成二十五周年に当たる記念大会でした。

午前十時に開会、町を五地区に分けて、おじいちゃん、おばあちゃん二百五十名が大ハッスル。大玉おくり、ザルひき、魚つりに風船おとしと続き、メイの輪投げレースとゲートボールリレーの時は、もう大にぎわい。みなさんお歳を忘れてはしやまなくつていました。

今回は記念大会なので公募した新しいゲーム、ジャンケンゲームを最後に全員で参加して大会を終了しました。二百五十分の一で優勝したのは鎌倉の斎藤由平さん。ラッキーでした。大きなトロフィーをもらって帰っ



いや〜、元気でたげました。

自分で作った竹トンボ うまく飛んだかな?



毎月行っている親子チャレンジ教室。今年も盛況で二十組以上の親子が参加しています。

七月のチャレンジは「竹トンボづくり」でした。遊び道具に恵まれた子供達に、自分の手で

作ったおもちゃで遊んでもらおうという目的です。

約一時間、ワーワーギャーギャー言いながらもついに完成。自分の作った竹トンボが見事に飛ぶと



「飛んだ、飛んだ。」とほしゃくことしきり。でも中にはうまく飛ばない子のものもあり、そんな時、お母さんと一緒にまた手を加えていました。

一生懸命な子どもにお母さんがちよつと手を貸してあげる。親まかせに、子どもまかせにしない、親子チャレンジ教室のいい所だと思っています。

作ったおもちゃで遊んでもらおうという目的です。

約一時間、ワーワーギャーギャー言いながらもついに完成。自分の作った竹トンボが見事に飛ぶと

そして試食会、美味しそうに自分が調理した物を食べていました。今後は十二月まで様々な内容で活動します。矢代田分館内の婦人であればどなたでも参加できます。

そして、開成式での平間安雄分館長のあいさつ、婦人部長の笹川さんの紹介が終了後、いよいよプログラムの調理実習へ。当日の献立は「馬肉のレモン風味焼き」、「白菜のリンゴドレッシング」等、夏バテ防止用のメニュー。四つの調理台に別れ、時には食生活改善推進員のお二人の声がよく聞こえない程のぎやかさで皆さん楽しく調理していました。

矢代田分館婦人学級が数年前に7月16日にふれあい会館で開成しました。学級参加者は全部で17名、ふれあい会館にほんどの方が始めて入館したのか、開成までの空き時間にみなさんがふれあい会館内を見学していました。

矢代田分館婦人学級が数年前に7月16日にふれあい会館で開成しました。学級参加者は全部で17名、ふれあい会館にほんどの方が始めて入館したのか、開成までの空き時間にみなさんがふれあい会館内を見学していました。



リングプル収容状況

催し物ご案内

表装教室第二期開成

期日 八月二十一日(水)
午後一時十五分

会場 中央公民館三階ホール
詳細は中央公民館事務局へ

絵本と紙しばいの読み聞かせ

期日 八月二十四日(土)
午後一時三十分

会場 中央分館会議室
お話し すすきな三人組 その他

91健康ナイトウォーク

期日 八月三十日(金) 午後七時三十分〜九時(約九km)

集合場所 中央公民館もしくはふれあい会館前

申込み 八月二十七日までに中央公民館又はふれあい会館へ持ってくる物 懐中電灯、飲み物、天候によって雨具 他 ※どちらのコースも星の説明があります。

ふくろう講座 「わたしと写真」

期日 九月十三日(金)

バドミントン 子供会発足

教育委員会主催のさわやかスポーツ教室で五月から始まっていたバドミントン教室が七月で閉成しました。しかし、参加者の親子から「もっとバドミントン」という声があり、中野裕子さん(新町四)を保護者会代表として「バドミントン子供会」が八月から発足しました。

練習会場：町民体育館
練習の曜日と時間帯は、
水曜日(午後7時〜8時30分)
金曜日(午後7時15分〜8時45分)
*バドミントン子供会に関する問い合わせは、高野豊さん(☎三八一三四七)の方まで。
「バドミントン」をやりたい小学生もつどうまくなりたい小学生もみな集まれ!

町民チャリティゴルフ大会

参加者募集

期日 十月四日(金)
午前七時三十分受付開始

会場 湯田上カントリークラブ
参加資格 小須戸町民、又は小須戸町内に勤務している方。
会費 一人三千円

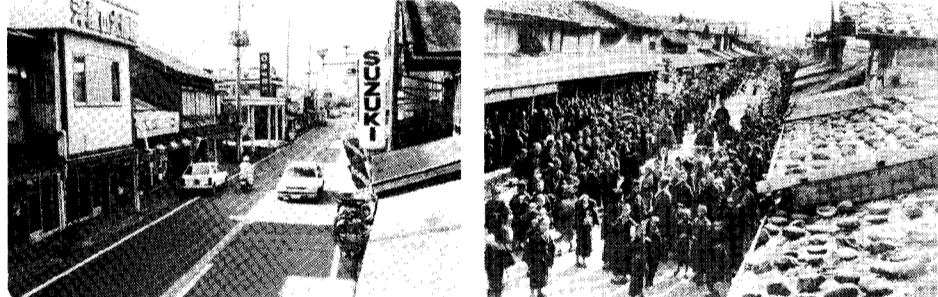
競技方法 十八ホールズストロークプレー、ダブルペリア方式

入賞 優勝(町長杯) 準優勝他
申込み 九月十八日までに中央公民館へ(申込書有り)

主催 町民チャリティゴルフ大会実行委員会
後援 中央公民館

真夜中は別の顔 上・下
シドニー・シエルゲン
晴れた空 上・下 半村良
諸葛孔明 上・下 陳舜臣
石濤 井上靖
結婚式 山田邦子
私はかく闘った 千代の富士貢
エッセイ集 ネパールのビール
手毬 瀬戸内寂聴
人生の裏目の時に読む本
写真 太平洋戦争 第一〜第五
光人杜刊
日本の歴史20・21巻
石ノ森章太郎

こすどまちの今昔写真展(4)



(現在) (明治初期) 本町2丁目通り 場所 本町2

明治初期に小須戸の町並みが撮影された貴重な写真。この写真は今の本町2丁目から本町1を臨んで撮ったもの。「森田喜三治」の弟分「金太郎」の葬式風景である。刀を差し、みな着物姿である。屋根の並びは100年たっても似ているように見える。

図書だより

小須戸川柳会

エレベーターに乗り買って来る甲虫
顔一つ西瓜に入れて涼を食う
母の愚痴聞き役になる盆帰省
通知表中味どうあれ夏休み
夏負けと言ってもビールだけは別
夏休み帰省の孫の飲みっぷり
帰省する子に落ちつかぬ母であり
ときめきの水際出番待ちらたくび
夏の夜大きな蚊帳に未亡人
夏の夜は互に布団距離を置く
夏休みチャンネル権を手にとられ
宿題に親は受難の夏休み
絵日記の為の一日予定組む
宿題を明日に延す子の寝息
炎天下 脚本のない甲子園

松沢キヨ
藤井春江
渡辺信子
小見ケン
阿達キヨノ
玉村タネ
吉田みな
保科志枝
岡田良平
加藤米二
吉田源吾
栗原ひさし
高橋ただし
我妻清作
長井武雄

梅雨やみて気の温もりし昼さがりあら草激しく匂いくる道
転がりてライトの光かえしいるひとつにあらず古りし空宙
雨上りバラの雫色はきわまりて枝切るごとに濡散らしぬ
逸り気の若衆あおる法螺貝を鳴らしわき立つ喧嘩燈籠
梅雨明けを待つ山裾に潮短短かき命ふるわせ
地の上に生きるあかしく踏みしめる足につたはる土のぬくもり

白南風の鶴鶴真に迫りけり
梅雨晴れの木洩日淡き真野御陵
追越して行くジョギングの日焼肩
雲絶えず松の若葉のこぞり立ち
一台は青空駐車燕の子
遠野公師への返信まとまらず
娘に送る荷のこまごまと笹粽
子燕に鳥語ありしか雨の軒
紫掛けラジオの株式市況聴き
茄子の花くらびるほどにぬれてあし
傘さして手折る夏菊仏の日記
乞食や寺には寺の甘茶花

朝露に神鎮まりて山開き
仏燈を消せばくちなし匂いくる
甚平て来て碁敵が居坐りぬ
語り女のゐる山里やほととぎす
鬼灯の橋に色づける実のありし
口つばめ郭公まわる孫笑顔

村山浩子
長井利恵子
高橋キヨ
牧野信雄
安達順子
鈴木ハナ

吉田素糸
中野木浪
間野良遊
田中美根子
五十嵐春月
佐久間父子
吉田ミナ
間島秀穂
名古屋蒼穹
小林富沙子
丸山虚秋
内山越楼

玉村タネ
安達キヨノ
吉田ミナ
丸山栄子
鈴木ハナ
中野敏子

俳句教室
俳句教室
俳句教室

七月例会作品
小須戸町俳句同好会

短歌クラブ作品

小須戸川柳会

俳句教室

俳句教室

俳句教室

俳句教室

俳句教室

俳句教室

俳句教室

俳句教室

俳句教室